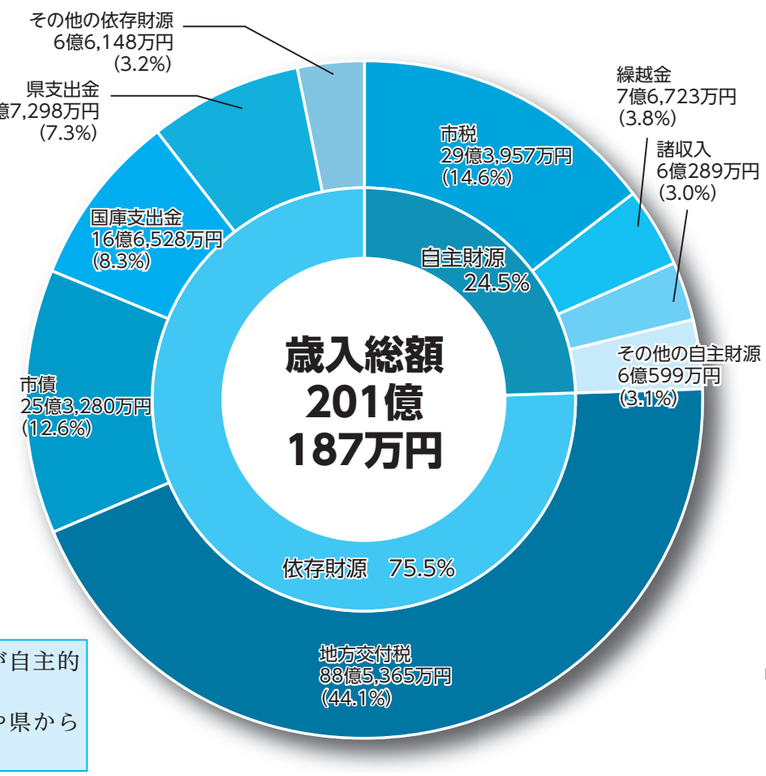
平成23年度 市の決算状況

9月14日から28日まで開かれた市議会第3回定例会で、平成23年度の一般会計など9会計の決算が認定されました。ここでは、決算の内容を財政の健全度を示す各種指標と併せて紹介します。（金額は、1万円未満を四捨五入しています）

歳入



▶自主財源＝市が自主的に収入できる財源
▶依存財源＝国や県から交付される財源

歳入　前年度に比べ自主財源比率が0・4ポイントの減少

23年度の一般会計の歳入（収入）は、201億187万円でした。

一番多くの割合を占めているのは、地方交付税の88億5365万円（44・1パーセント）ですが、前年度より3・1ポイント少なくなっています。続いて2番目に多いのが、市税の29億3957万円（14・6パーセント）、3番目に多いのが、市債の25億3280万円（12・6パーセント）でした。

歳入のうち、自主財源は、49億1568万円（24・5パーセント）で、依存財源が151億8619万円（75・5パーセント）となり、前年度と比べて自主財源が0・4ポイント少なくなっています。

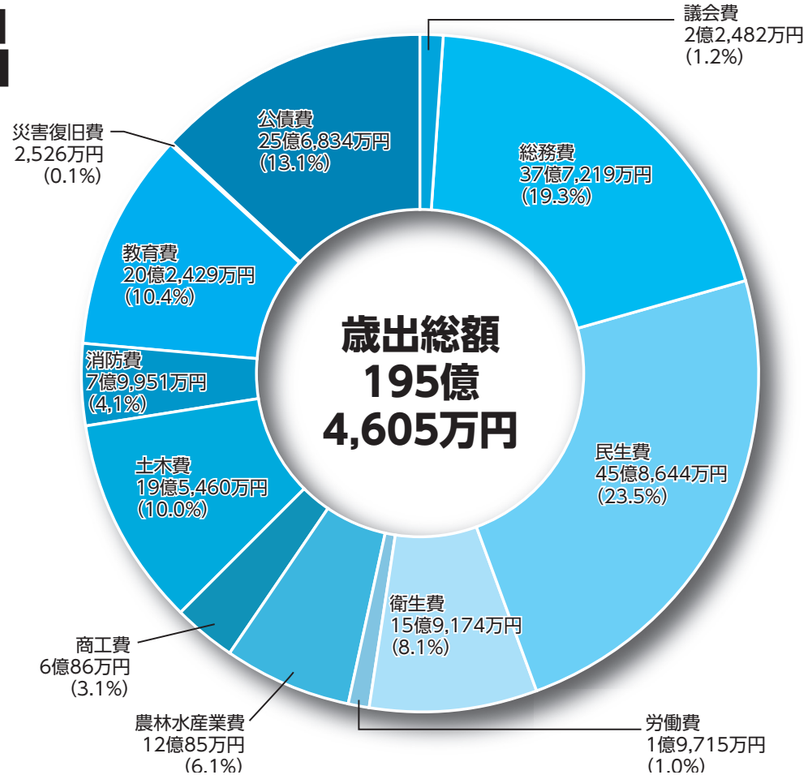
歳出　災害支援や施設建設に伴う事業の費用が増加

一般会計の歳出（支出）は195億4605万円となりました。

平成23年度特別会計・企業会計の決算状況

会計名		収入額	支出額
国民健康保険（事業勘定）		36億9,342万円	35億2,984万円
国民健康保険（診療施設勘定）		3億2,178万円	2億9,632万円
後期高齢者医療		2億2,863万円	2億2,719万円
公共下水道事業		6億6,127万円	6億3,856万円
農業集落排水事業		10億8,133万円	10億7,091万円
浄化槽事業		4,548万円	4,158万円
水道事業	収益的収支	10億2,242万円	9億3,213万円
	資本的収支	2億9,119万円	6億3,175万円
西根病院事業	収益的収支	14億　934万円	13億9,806万円
	資本的収支	5,907万円	7,004万円

歳出



歳出の中で最も多いのが、高齢者や児童、障がい者の福祉のために使われる民生費の45億8644万円（23・5パーセント）でした。前年度に比べ、約4億7千万円増となっていますが、これは、東日本大震災に伴う「がんばろう岩手基金」の積み立てなどの災害救助に充てる費用や国民健康保険特別会計（事業勘定）への繰り出しが増えたことによるものです。

続いて多いのが、総務費の37億729万円（19・3パーセント）、次いで公債費の25億6834万円（13・1パーセント）となっています。

特筆されるのは、教育費が前年度と比較して約5億3千万円増え、20億2429万円（10・4パーセント）となったことです。これは、松尾地区コミュニティセンターの建設に伴って大幅に増加したものです。

グラフに記載はありませんが、財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より0・9ポイント増え、86・7パーセントとなり、財政力指数は0・1ポイント減の0・29となりました。財政力指数は、地方交付税交付金の支給に関わっていて、一部の市町村以外は、1を下回っています。

市では、今後も一層の経費削減などに努め、効率的で無駄のない行財政運営を目指していきます。

詳しくは、市役所市長公室財政係（☎・内線1217）まで。

財政の健全度を示す指標

❶**実質赤字比率**　一般会計など税金が主な収入源の会計収支が、標準財政規模（※）に占める赤字の割合。本市は実質黒字なので、該当はありません。

❷**連結実質赤字比率**　企業会計を含む全会計の赤字額が、標準財政規模に占める割合。本市は実質赤字や資金不足の会計はありません。

❸**実質公債費比率**　地方債の償還金を標準財政規模で割ったもの。本市は前年度より1・4ポイント低い13・0パーセントです。

❹**将来負担比率**　現在抱えている負債の大きさを標準財政規模で割ったもの。本市は、前年度より12・2ポイント低い29・4パーセントです。

❺**資金不足比率**　下水道など公営企業の資金不足を事業の規模と比較したもの。本市は該当なし。

※**標準財政規模とは**

市が、標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示すものです。標準税収入などに普通交付税を加算した額。財政の指標となる❶から❺までの比率を計算するための分母となる重要な数字です。23年度の市の標準財政規模は、123億7171万円です。